

又より山のふ中に田村丸跡居ありとて
此衆あり或いはる場おといふ所あり、
二里程西北にちんとう寺あり山中之足怪
三十人足置れふ急の備とを

一金沢古城

金沢ハ村名なり 衆教之る
余初あり 奥羽軍記は金沢の
城とありいは之又厨川の城といふ厨川と
いふ川南面の西を流る小川の事とを去
人貞任の居城なり——と云傳へり 義經記に
金沢の城を
もおとされて白き山よかりて
衣川の城よこありとあり け人厨川を假名と

とふれを南場のとく事疑なり——天喜録二
と毫は出羽に厨川の柵——とて貞任家任
を撃手平と云く五代一統は南羽とを
厨川の城といふ被地の事ハ未考太平記
評判の傳曰は金沢多海とあり貞任滅後
武衡兄弟又南場とあり。太平記評判曰
往古新義奥まで家任を責——に希ふにを
はは役人日玉九郎と相見侍りをあて出
され——に人足を感を新義見あひて以の外
は多々換——とて疑は何れに日玉とを